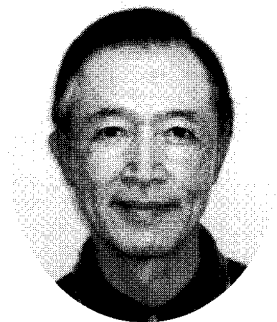


特異なスポーツ ゴルフ



フェローシップ・エチケット委員長 松山久秋

どんなスポーツでも「練習は裏切らない」と言いますが、ゴルフにも当てはまるのでしょうか？友人に聞いてみたら、ゴルフでもその通りだという人の方が多かったけれど、ゴルフには当てはまらない、という人も結構いました。ゴルフは練習しても、悪い癖を固めているだけなのか、なかなかスコアは良くなならない、とのボヤキが聞かれました。ゴルフは練習しても上達しない変なスポーツだなどと言ったら、ゴルフに厳しい諸先輩方に怒られそうです。上達しないのは正しい練習をしないからであって、ゴルフが変なのではない、という声が聞こえてきます。ごもつとも。

ゴルフが他のスポーツと変わっていると言えば、規則です。規則書の第一章にエチケットが載っている。そんなスポーツはゴルフの他にないでしょう。柔道でも「礼節を重んじ」という規定がありますが、規則の第一章ではありません。なぜ、ゴルフではそうなのでしょう？そもそも、エチケットって何なのでしょう？

この前、あるゴルフ場で友人とプレーしていて、こんなことがありました。フェローシップ・エチケット委員会は、目土袋を携行することを推奨していて、自分もやっとな目土袋を持つことに慣れてきたのですが、同伴の友人から苦情を言われました。「松山さんがいつも目土袋を持って行ってしまうので、自分が目土できない」と。自分のことだけ考えて、同伴のプレーヤー

のことまで考えていなかったことに気がつきました。

ゴルフ規則第一章「エチケット」には、コースでの心得、他のプレーヤーに対する心くばり、プレーのペース、コースの保護など、大事なことが書かれています。目土袋を独占したのは、同伴のプレーヤーに対する心くばりが足りない行為でした。「プレーヤーがみなゴルフを最大限に楽しむことができる」ために、エチケットがあり、エチケットの基本は心くばりであると、規則書に述べられています。心くばりしようとする気持ちはどこから来るのか？それはrespectする思いだろうと思います。仲間のプレーヤーへのrespect、コースへのrespect、ゴルフそのものへのrespect。

プレーファストも大事ですが、それを思うあまり、仲間を急かせて不快な思いをさせていないのでしょうか？もし、そうだとしたら、エチケットに適わないことになります。ちなみに、欧米では、スロープレーを避け、適切なペースでプレーして前を空けないように、とは言いますが、プレーファストという言い方は見聞きしたことはありません。いい標語だと思いますが、白洲次郎さんが流行らせた言い方で、日本流なのかな？

この年になって、ゴルフの技術が向上することは期待できませんが、より良いエチケットを身につけることは、まだまだできそうだから、明日もまた、respectを持ってゴルフに向き合おうと思います。